

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所



南摩ダム完成予想図

特別寄稿

「思川開発事業と共に」

栃木県企画部水資源対策室長 稲葉 茂



今では、上南摩町と西沢町に2つの集団移転地が完成し、水没地域のほとんどの方々が、それぞれ新たな生活をお送りしていることをお聞きしまして、当時の担当者として安堵いたしております。

さて、水資源をとりまく近年の情勢につきましては、地球温暖化の影響等により、地域により豪雨と渇水の頻度が顕著化すると言われております。将来にわたり、気象状況の変化に的確に対応し、地域住民が安全で安心した生活を送るためには、水資源の確保と水資源施設の適切な運営が益々重要となってくるものと思われまます。

県といたしましては、このような期待に応えるため、また、ご協力頂きました皆様の御労苦に報いるためにも、一日も早いダムの完成を望むものであります。今後とも、国や独立行政法人水資源機構等に対し、積極的に働きかけていく考えでありますので、尚一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年四月に、企画部水資源対策室長となりました稲葉です。

この度の異動によりまして、本室勤務は3度目となります。公務員生活の中でも、決して短くない期間を思川開発事業と共に歩んできたような想いでありまます。

中でも、前回在籍中の平成十三年という時期は、知事の交代と事業の見直し、そして南摩ダム建設に伴う損失補償基準の妥結、調印という極めて重要な局面を迎えたときでもあり、その当時の様子は、今でも昨日のことにように思い出されます。

特に、移転を余儀なくされた住民の方々におきましては、長年住み慣れたふるさと南摩の地を離れなければならない寂しさや、新たな生活への不安を抱えてのダム事業への合意となったものであり、調印式での皆様の表情は今でも忘れることはできません。



こんにちは！ の 南摩仲間たち



ダイヤモンドソウ

その
ダイヤモンドソウ
(ユキノシタ科ユキノシタ属)
Saxifraga fortunei var. incislobata

ダイヤモンドソウは湿った岩上や渓谷の流水沿いに生える多年草の植物です。5枚の花弁からなり、写真のとおり、花の形が大の字のように見えることからダイヤモンドソウと呼ばれています。

国内では北海道から九州まで分布していますが、朝鮮半島、中国、樺太と広範囲に分布しています。南摩川周辺においても確認されており、また、黒川や大芦川沿いでも、岩場の割れ目に根を張り可愛い花を咲かせています。

自生しているダイヤモンドソウは、そのほとんどが白色ですが、園芸種としても人気が高く、白色の他、赤色やピンク色など品種改良がされています。

花期が7月から10月のため、今回の「南摩の仲間たち」がお手元に届く頃が、今年最後の見られるチャンスかもしれませんね。

人事異動

七月二十日付で異動のありました職員を紹介します。
転入者 「よろしくお願ひします」(前任地)
引地 隆久(川上ダム建設所)

十月一日付で異動のありました職員を紹介します。
転入者 「よろしくお願ひします」(前任地)
甲斐 恵一(利根導水総合管理所)

転出者 「お世話になりました」(転出先)
小田 尚(人事部労務厚生課)

環境課 所内異動 「引き続きよろしくお願ひします」
青木 成幸(第一調査設計課)



編集後記

空気が乾いて朝晩めっきり冷え込む季節となりました。皆様も風邪などひかれませぬよう、ご自愛下さい。

編集・発行所



独立行政法人 水資源機構
思川開発建設所
〒320-0065 宇都宮市駒生町中丸3368
Tel(028)622-8941 Fax(028)622-8945
ホームページ http://www.water.go.jp/kanto/omogawa/index.html

鹿沼事務所
〒322-0346 鹿沼市上南摩187-18
Tel(0289)77-3888 Fax(0289)77-3890

付替県道杓子沢地区事業説明会を開催

南摩ダム水没予定地内を縦断する一般県道上久我都賀栃木線は南摩ダム建設によりダム湖底に沈むこととなりますが、水没する道路に替わり上久我と都賀、栃木を結ぶ付替道路を建設します。

新たな県道は流域上流端の笹之越路よりダム左岸側を通過して、6つの橋と4つのトンネルを経由し杓子沢で元の県道に戻る計画です。そのなかでも、杓子沢地区の道路はダム本体の工事着手に欠かせない重要な道路です。

8月4日に杓子沢地区の道路に関係する皆さまを対象に事業説明会を開催して、平成16年度に引き続き山林部の調査・測量等についての了解を頂きました。地元の方々にとっては生活に直結する道路計画とあって、道路設計や必要となる用地、今後の予定等について真剣なご意見、ご質問を頂き、活発な議論が行われました。

今後ともこれまでと同様に、地元の皆さまのご理解を頂きながら着実に事業を進めてまいります。

郷土種による植生回復を目指しています！

当建設所では、環境保全対策の一環として、工事等による改変地の植生回復を南摩地域の郷土種を用いて行うことを検討しています。

前回の思川だよりでも昨年の育苗経過をお知らせしておりますが、今年は7種(コナラ、アラカシ、シラカシ、エゴ、クマシデ、ヤブツバキ、アブラチャン)の種子の採取を行いました。特



アブラチャンの種子を採取中

に、コナラやシラカシ、アラカシといったドングリを中心に採取しましたが、ドングリは木から落ちるとともに虫に先取りをされてしまい、採取は困難なものでした。そのため、全く採取出来なかったコナラについては実生(種子から発芽した)の苗を100株採取し、その他の種子については、100~200粒をポットに播種し、育苗をスタートしました。

今後は、昨年度に播種したアカメガシワやコクサギ、エノキなど全12種類の種子とともに経過を観察していきます。

来年の春が楽しみでもあり、不安もありますが、将来の南摩の豊かな自然を目指し、苗木の育成技術の確立を目指していきます。



種子の選別作業風景



平成18年度概算要求額について

下記のとおり平成18年度の概算要求額が決定しましたので、お知らせします。

なお、18年度の事業内容としては、水理調査、環境調査、用地補償等を実施する予定です。

総事業費	約 1,850 億円
平成16年度まで	389.2 億円
平成17年度当初	68.1 億円
	(うち用地先行取得償還費 50.9 億円)
平成18年度要求額	79.2 億円
	(うち用地先行取得償還費 52.9 億円)

南摩川流域に観測開始以来最大の降雨を記録

平成17年8月13日に南摩ダムサイトにおいて平成3年の雨量観測開始以来最大の時間雨量56.5mmを記録しました。

時間最大雨量は20時から21時にかけて記録され、この時間を含む一雨連続雨量も約164mmに達しました。

この集中豪雨により、南摩川も増水しダムサイト付近の県道が冠水しました。

南摩川は流域が12.4km²と小さく、洪水流量の値そのものは他の河川に比較して小さいのですが、短時間で流量が増え、下流河川の流下能力も小さいので注意が必要です。

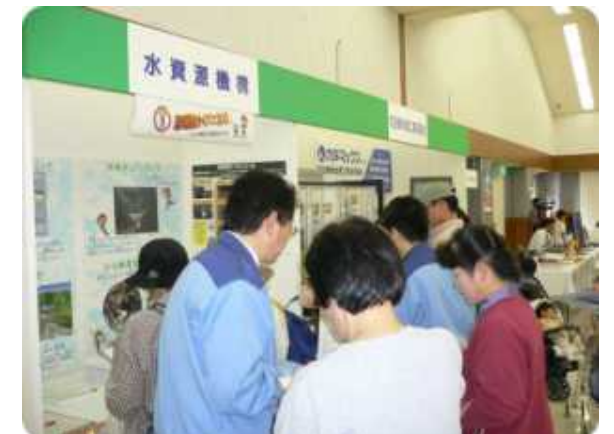
最近、地球温暖化に起因するといわれる気候変動によって、全世界で大洪水や局地的な豪雨が発生しています。日本も昨年は10個の台風が上陸するなど、今後ともダム等の水資源開発施設を着実に整備して異常気象にも備えていく必要があります。

「かぬま産業交流フェア」に参加します！是非来てね！

思川開発建設所では、来る11月19日(土)・20日(日)に鹿沼商工会議所催事ホール及びその周辺で開催される「かぬま産業交流フェア」(主催:かぬま産業フェア実行委員会)に参加します。

かぬま産業交流フェアとは、鹿沼市の産業紹介や特産品の展示・即売を通して、鹿沼市及び産業界の一層のイメージアップを目的として開催されるイベントです。当機構も、地元鹿沼市の方々との交流をとおして思川開発事業をより広く皆さまに知っていただくために、3年連続で事業紹介のパネル展示など行うこととなりました。

当日は、鹿沼市内の企業などをはじめ幅広い分野から参加があり、各々の特色を生かしたイベントや物販が実施される予定です。当機構も今年は展示ブースを増やすなど、内容を充実させて事業の広報に努めて参ります。皆様のご来場をお待ちしております。



賑わう水資源機構のブース前(昨年の様子)